

条件文5-5 3つ以上の因子におけるsignと2つ以上の因子におけるsymptom

N		予測グループ番号		合計
		0:無し	1:有り	
元データ	0:無し	140	15	155
	1:有り	66	122	188
合計		206	137	343

予測グループ番号		合計
0:無し	1:有り	
90.32%	9.68%	100.00%
35.11%	64.89%	100.00%

カイ二乗	有意確率	固有値	偏F値	有意確率
36.101	$p<.000$	0.459	156.66	$p<.001$

Wilksの $\Lambda$	等価なF値	自由度	有意確率
0.685	156.66	(1, 341)	$p<.001$

Sensitivity	Specificity	判別確率
0.649	0.903	76.38%

条件文5-6 3つ以上の因子におけるsignと3つ以上の因子におけるsymptom

N		予測グループ番号		合計
		0:無し	1:有り	
元データ	0:無し	141	14	155
	1:有り	73	115	188
合計		214	129	343

予測グループ番号		合計
0:無し	1:有り	
90.97%	9.03%	100.00%
38.83%	61.17%	100.00%

カイ二乗	有意確率	固有値	偏F値	有意確率
43.870	$p<.000$	0.402	137.22	$p<.001$

Wilksの $\Lambda$	等価なF値	自由度	有意確率
0.713	137.22	(1, 341)	$p<.001$

Sensitivity	Specificity	判別確率
0.612	0.910	74.64%

条件文5-7 3つ以上の因子におけるsignと4つ以上の因子におけるsymptom

N		予測グループ番号		合計
		0:無し	1:有り	
元データ	0:無し	147	8	155
	1:有り	94	94	188
合計		241	102	343

予測グループ番号		合計
0:無し	1:有り	
94.84%	5.16%	100.00%
50.00%	50.00%	100.00%

カイ二乗	有意確率	固有値	偏F値	有意確率
96.828	$p<.000$	0.313	106.7	$p<.001$

Wilksの $\Lambda$	等価なF値	自由度	有意確率
0.762	106.7	(1, 341)	$p<.001$

Sensitivity	Specificity	判別確率
0.500	0.948	70.26%

条件文5-8 3つ以上の因子におけるsignと5つ以上の因子におけるsymptom

N		予測グループ番号		合計
		0:無し	1:有り	
元データ	0:無し	151	4	155
	1:有り	152	36	188
合計		303	40	343

予測グループ番号		合計
0:無し	1:有り	
97.42%	2.58%	100.00%
80.85%	19.15%	100.00%

カイ二乗	有意確率	固有値	偏F値	有意確率
117.396	$p<.000$	0.070	24.1	$p<.001$

Wilksの $\Lambda$	等価なF値	自由度	有意確率
0.934	24.1	(1, 341)	$p<.001$

Sensitivity	Specificity	判別確率
0.191	0.974	54.52%

## 平成 18 年度 CRPS の診断基準作成に係る分析 メタ・アナリシスについて

### 1. メタ・アナリシス実施の目的

- CRPS 治療に関する論文データについて、Meta-analysis 処理を実施して臨床データの統合を行い、CRPS 治療法の有効性を評価することが目的である。

### 2. メタ・アナリシスとは

- 過去に行われた複数の独立な研究結果を統合するための(統合できるか否かの検討も含めた)統計解析である。
  - メタ・アナリシスは、システマティック・レビューの「統計解析」にあたる部分という理解が古典的である。

### 3. CRPS治療関連論文の整理に関して

- CRPS 治療に関する論文データについて、単純に臨床データの統合が行えるわけではない。
- 対象者、治療法、アウトカム指標、実験デザイン等、条件設定の整理が必要。
- まず、以下の表のように条件の整理を行い、アウトカム指標となるデータの統合が可能な論文の抽出を行う。

No.	CRPS対象	RCT	DB	PC	治療法	アウトカム	a.実験群治療効果あり	b.実験群治療効果なし	c.統制群治療効果あり	d.統制群治療効果なし	平均値比較等
1	○	×	×	×	脊髄電気刺激法(交感神経遮断有り)	痛みの除去	13	0			
1	○	×	×	×	脊髄電気刺激法(交感神経遮断無し)	痛みの除去	3	7			
2	○	×	×	×	クロニジン鞘内投与	痛みの除去	4	11			
3	○crps I	○	○	×	GV196771(グリセリン結合部位遮断薬)	痛みの変化					GV群:痛み+2mm(SD:8). 統制群:痛み-3mm(SD:6)
4	○crps I	○	×	×	(痛みの指標について:1時点vs多時点)						
5	○	○	×	○	脊髄電気刺激法	痛みの変化					[6ヶ月後の痛み] SCS群:-2.4cm, 統制群:+0.2cm; 【主観的痛み「著しく改善」の割合】SCS群:39%, 統制群:6%
6	○crps I 小児	×	×	×	末梢神経ブロック(使い捨てエラストマーポンプ式)	痛みの除去	13	0			
7	○	○	○	○	ビタミンC 500mg/d	RSD出現率					【50日間のRSD出現率】ビタミンC群: 8%, 統制群: 22%
8	○	×	×	×	交感神経遮断(一時的な痛みの除去)	痛みの除去	48	6			
8	○	×	×	×	交感神経遮断(永久的な痛みの除去)	痛みの除去	3	51			
8	○	×	×	×	交感神経切除(交感神経遮断によって一時的に痛みが除去できた者のみ)	痛みの除去	45	0			
9	×										
10	○(RSD)	×	×	○	上肢の受動運動を抑制するプロトコル	SHSの出現	15	66	23	48	【SHSの出現率】 実験群: 18.5%, 統制群: 32.4%
11	○crps I	○	×	×	Motor Imagery Program	痛みの除去(NPSスコアの減少)					比較が、他の治療群2つ。7%~18%の効果サイズ

RCT: Randomized Control Trial

DB: Double-blinded

PC: Placebo-controlled

以上